

避難先を確保・交流を強化 災害時相互応援協定締結

広野町およびB&G財団施設設置町（柳津町・埴町・石川町）と災害時相互応援協定が締結されました。



左から広野町議会副議長、広野町議会議長、広野町長、小野町長、小野町議会議長、小野町議会副議長

◎広野町との協定

広野町は、東日本大震災直後に、広野町民が小野町の施設に一時避難し、役場機能を置いたことを機に、3月4日、災害時における相互応援に関する協定を締結しました。

調印式には、両町の議会議長・副議長も出席し、町同士の間で交流や災害時の支援内容を確認しました。

◎県内B&G財団施設設置町との協定

県内にあるB&G財団の施設が立地する小野町、柳津町、埴町、石川町の4町は3月5日、B&G財団の広渡英治理事長出席の下、4町連名で災害時における相互応援に関する協定を締結しました。

協定には、いずれかの自治体が災害に遭い応援を要請した場合、協定に基づいて、食料・飲料水および生活必需品

の供給、被災者の救出、車両などの提供、職員の派遣、ボランティアのあつせんおよび避難施設の提供などが盛り込まれています。また日頃から自治体間の交流を深めることが、有事の際に相互の支援につながることから、各地域間の交流に努めています。



左から埴町長、柳津町長、B&G財団理事長、小野町長、石川町長

川俣町の仮置き場を視察

川俣町大綱木地区に設置された、除染により発生した土壌などを一時保管する仮置き場の現地視察会を2月19日に行いました。

視察会には、夏井地区（大字夏井、南田原井、湯沢、塩庭、上羽出庭、和名田）の仮置き場の設置予定地である南田原井行政区の方々を中心に43人が参加しました。

視察会では、川俣町の担当者や自治会長から仮置き場の構造や設置に至る経過などの説明を受け、保管容器の耐用年数など疑問に思っていることなどについて質問を行いました。その後、ガンカメラという放



ガンカメラの説明を受ける参加者



現地視察会の様子

射線量の高低を色分けし画像で確認できる装置を使い、保管されている土壌などと周辺の山林とを比較して仮置き場の放射線量が低いことを参加者自らが実際に見て確認することができました。

今後町では、夏井地区の仮置き場の調査・測量を行い、地元行政区などと協議しながら、安全な施設の設置を進めていきます。除染作業を実施するため、仮置き場の設置は必要不可欠となります。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

町民生活課

☎72-69693